

1 大池(向佐野)、太宰府歴史スポーツ公園

太宰府に多いため池を代表するポイントです。どちらも公園内にあり、池のまわりは散歩コースとなっています。水量があり、規模も大きいことから、冬季にはたくさんのカモがやってきます。種類も多く、市内で見られるカモのほとんどを、この二つの池で見ることができます。

また、太宰府歴史スポーツ公園では山の鳥も観察することができます。



大池(向佐野)



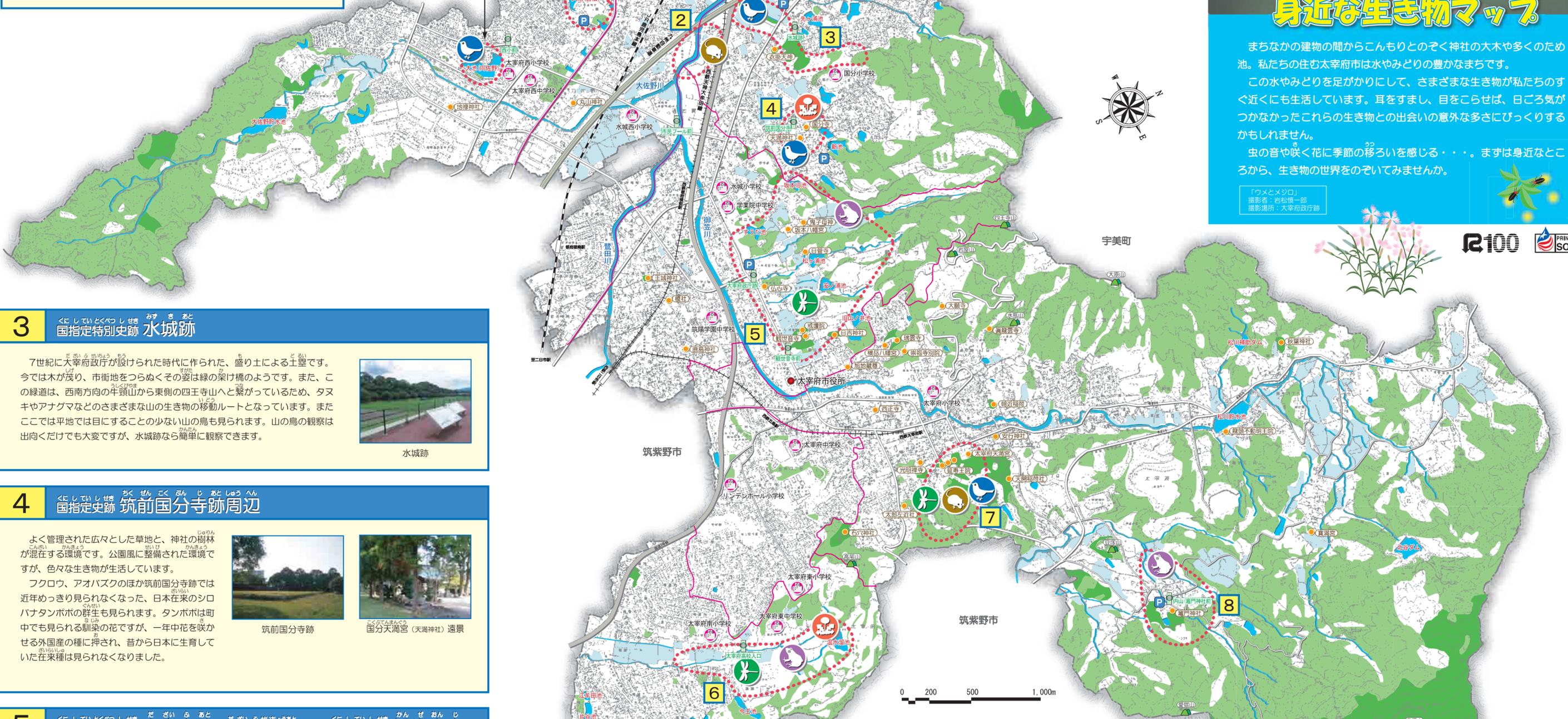
太宰府歴史スポーツ公園横大池(吉松)

2 御笠川

市内を流れる御笠川の中流部でのポイントです。川岸に高い堤防がないため、水面に近い目線で観察できます。また、水辺の周辺には草地があり、草地の生き物も観察できます。



御笠川(中流部)



主な見どころ		凡例	
	鳥類		自然に近い樹林地
	昆虫		樹林地
	両生類		ため池・川など
	ほ乳類		水田
	植物		主な神社・仏閣
			小学校・中学校
			駐車場
			まほろば号停留所
			小学校区分線
			観察ポイント



だざいふ 身近な生き物マップ

まちなかの建物の中からこんもりとのおく神社の大木や多くのため池。私たちの住む太宰府市は水やみどりの豊かなまちです。この水やみどりを足がかりにして、さまざまな生き物が私たちのすぐ近くにも生活しています。耳をすまし、目をこらせば、日ごろ気がつかないこれらの生き物との出会いの意外な多さにびっくりするかもしれません。

虫の音や咲く花に季節の移ろいを感じる・・・まずは身近なところから、生き物の世界をのぞいてみませんか。

「ウメとメシロ」
撮影者：岩松慎一郎
撮影場所：太宰府政庁跡

3 国指定特別史跡 水城跡

7世紀に太宰府政府が設けられた時代に作られた、盛り土による土壘です。今では木が茂り、市街地をつらぬくその姿は緑の架け橋のようです。また、この緑道は、西南方向の牛頭山から東側の四王寺山へと繋がっているため、タヌキやアナグマなどのさまざまな山の生き物の移動ルートとなっています。またここでは平地では目にすることの少ない山の鳥も見られます。山の鳥の観察は出向くだけでも大変ですが、水城跡なら簡単に観察できます。



水城跡

4 国指定史跡 筑前国分寺跡周辺

よく管理された広々とした草地と、神社の樹林が混在する環境です。公園風に整備された環境ですが、色々な生き物が生活しています。

フクロウ、アオバスキのほかに筑前国分寺跡では近年めっきり見られなくなった、日本在来のシロバナタンポポの群生も見られます。タンポポは町中でも見られる馴染みの花ですが、一年中花を咲かせる外国産の種に押され、昔から日本に生育していた在来種は見られなくなりました。



筑前国分寺跡



国分天満宮(天満神社)遠景

5 国指定特別史跡 大宰府跡(大宰府政庁跡) ～ 国指定史跡 観世音寺

四王寺山の山裾を流れる沢水と、これを水源とするため池、周辺の樹林地が、一帯的に残された水辺の生き物の、生息環境として良好な場所です。ここではハイケボタルやゲンジボタル、トンボのほか、早春に産卵するカエルやサンショウウオが生活しています。



安ノ浦池西側湿地帯



観世音寺

6 高雄地区

温水ため池の下に広がる平地の水田地帯です。水辺を生命線として、さまざまな生き物が見られます。ため池の堤の草地にはオニユリが咲くほか、水田にはホウネンエビ、川にはゲンジボタルが見られます。



温水ため池下の水田地帯

7 太宰府天満宮～九州国立博物館

天満宮の周囲は、天然記念物などのクスノキの巨木を含む樹林地です。市街地に近い環境ですが、宝満山に連なる樹林地として山の動物が生息しています。フクロウ、アオバスキ、ムササビなど大木の穴で生活するものや、クワガタムシ、カブトムシなども見られます。



太宰府天満宮内の樹林地

8 竈門神社

太宰府市周辺で一番の立派な照葉樹林があり、山地の動物の生息環境として注目されがちですが、意外なことに市内で最も多くのカエルを見ることができる、カエルの観察ポイントです。竈門神社、その下の水田環境で6種類ものカエルが確認されています。



竈門神社



1 大きなため池 大池(向佐野)、太宰府歴史スポーツ公園

冬の訪れを告げるカモの仲間

カモの仲間の多くは、夏にロシアなどの北の国で子育てをし、厳しい冬を越すために日本へやってくる渡り鳥です。目立つ色・柄を持つ種類が多いカモの仲間、いろいろな種類が集まる場所で比べてみましょう。

観察の時期：11月～2月
観察に持っていくと便利なもの：双眼鏡
アドバイス：カモは種類によって好きな環境や食べ物がちがいます。これがかちばしや体の形を決めています。どのような関係があるのか調べてみましょう。また、オス、メスで姿が違うので注意が必要です。



4 草地と森林 国指定史跡 筑前国分寺跡周辺

いろいろなタンポポ

市内で見られるタンポポの種類は、外国から入ってきたセイヨウタンポポ、アカミタンポポと、もともと日本に生育していたシロバナタンポポの3種です。筑前国分寺跡、国分天満宮では全てを見ることができます。花の咲く時期、生育環境、タネの様子などを観察してみましょう。

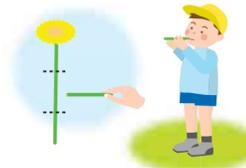
観察の時期：4月～5月
観察に持っていくと便利なもの：ルーペ
アドバイス：タンポポにも生きるための戦略があります。日本産の種類は春にしか咲きませんが、外国産のものは年中花を咲かせます。また、花粉がつかなくても種を作れるものもあります。



タンポポで遊ぼう

■タンポポ笛の作り方

- ①花の咲いた若い茎を選びましょう。
 - ②茎を5～6cmの長さに切ります。
 - ③吹き口を軽く指でつぶして吹きます。
- ※茎の太さや長さで音が変わります。



■タンポポ風車の作り方

- ①茎に数ヶ所切り込みを入れます。
 - ②水でぬらして反り返させます。
 - ③竹ひごや他の細い茎を通します。
- ※両はしを持って息を吹くと回ります。



●観察のための注意点

- 危険な場所へは近づかないようにしましょう。罫やロープが張られた場所は、足場が悪いなどの危険な場所です。内側には入らないようにしましょう。また、水辺に近づく場合は必ず大人の人といっしょに行きましょう。
- 長そで、長ズボン、帽子がおすすめです。草丈の高い草むらに入ると、草で切り傷などがをしたり、草まけたりすることもあります。また、蚊などを防ぐためにも、長そで、長ズボン、帽子が役立ちます。

- 水分補給に気をつけましょう。特に暑くなる夏には、熱中症や日射病になりやすくなります。水筒を持っていく、こまめに水を飲むなどの注意が必要です。
- 観察後は生き物を野外に放してあげましょう。野生の生き物は、生息環境を離れると生きていきません。また、わたしたちが大量に捕まえることで、絶滅してしまうこともあります。同じ太宰府市に住む住民として、やさしく見守ってあげましょう。

●双眼鏡やルーペの選び方と注意点

- 体にあった双眼鏡を選びましょう。大きく重いものは肩こりの原因となります。
- 倍率は7～9倍程度のものでおすすめです。高倍率だと手ブレの恐れがあります。
- 口径は30mm以上あるものがよいでしょう。口径があまり小さいと暗く、大きいと大型になります。
- ぬれたらすぐに乾かします。ケースに入れて奥にしまひ込むとカビが生えやすくなります。

- 性能の良い虫眼鏡・ルーペを選びましょう。植物や昆虫の全体を観察するには、倍率が2～5倍くらいのもので便利です。細かい部分を観察するには、10～15倍ほどのルーペが適しています。
- 管理には注意しましょう。窓際などに放置しておくことで、太陽の光で火災の原因になります。

STOP! ■太陽や明るい光源を絶対にこのぞいではいけません。失明の恐れがあります。

6 平地の水田 高雄地区

里地の生き物

水田やため池、集落などよりの里地には思いのほか、いろいろな生き物が生活しています。稲作や草刈などの人間の作り出す環境にしっかりと寄りそい、したたかに生きている生き物を観察してみましょう。

観察の時期：春季～夏季
観察に持っていくと便利なもの：ルーペ
アドバイス：ホタルの発光は時間帯によりピークがあります。一日のうち何度かピークをむかえますが、日没後30分～1時間くらいが観察しやすいでしょう。



7 丘陵地の樹林 太宰府天満宮～九州国立博物館

夜に動き回る動物たち

生き物の中には昼間は眠り、夜になると動き始めるものが多いです。昼間はなかなか出会うことのないこれらの動物も、動きが活発になる夜には会うことができるかもしれません。日ごろは気づかない新しい太宰府市を発見してみませんか。

観察の時期：春季～夏季
観察に持っていくと便利なもの：赤いセロハンをつけた懐中電灯(ムササビ観察用)
アドバイス：ムササビが生活する場所には、正露丸によく似たフンが落ちています。また、木の葉は二つ折り、四つ折りにして食べるためV字や中心に穴の空いたものが散らばります。このような生き物の生活の痕跡をフィールドサインといひ、生活の様子を想像することができます。



8 昔ながらの里地・里山 竈門神社

カエル類の宝庫

かつてはどこにでもいたカエル類も、生息環境が少なくなりめっきり見られなくなりました。カエルの代名詞だったノノサマガエルが福岡県の絶滅のおそれのある種に指定されたり、イボガエル(ツチガエル)を見かけなくなったりしています。これらのカエル類は山に近い昔ながらの水田や池等で生活しています。

観察の時期：早春～夏季
観察に持っていくと便利なもの：長ぐつ
アドバイス：カエルの幼生(オタマジャクシ)は一見よく似ていますが、よく見ると目の位置、色、形やもようなどから判断することができます。観察してみましょう。

